

introduction

第1回 品詞の分類

品詞って、動詞とか名詞とか、そんな区別でしたよね。で、動詞に～ing がついて動名詞になったり to がついて不定詞になったり、こんがらがってしまいます。



そうだね。今回は一度に 10 種類をまとめて整理しておこう。名詞・代名詞・動詞・形容詞この 4 つが特別に重要。文を作る「要素 (必須のもの)」になる。それ以外に助動詞・副詞・前置詞・接続詞・冠詞・間投詞。これで 10 種類。

うへえ。とても覚えられる気がしません。国語でも習いましたが、同じものでも微妙に違うことがあってややこしいですね。英語には形容動詞がなく、冠詞は日本語にはなくて…、ああ。品詞、最初に覚えるんですか？



まず、日本語なら、品詞はそんなに完璧でなくても使えるね。でも、外国語を学ぶ場合は、品詞を押さえるのが基本なんだ。高校英語では欠かせない。今は難しくても、時間がたてば「やっといてよかった」ってなる。

時間がかかるんなら、今日はもう終わりにして何年後にもう一度教えてほしいですね。でも、覚えなきゃいけないなら暗記はします。「名詞・代名詞・動詞・形容詞・副詞…」って唱えて。



いや…、名前だけ覚えるのはあまりおすすめしないよ。それより、「文 (ピリオドまでで 1 文)」の中での役割を理解しながら覚えてね。まず「名詞」は名前。「動詞」は動作や状態。形容詞は「ものごとの様子」など、ね。

はい。「名詞は名前」「動詞は動作や状態」「形容詞はものごとの様子」これを覚えれば OK、ですね。他の品詞についても教えてください。「代名詞は名詞の代わり」ですか？



いや…、そうやって暗記することを勧めてるんじゃないの。たとえば「book」。この品詞、何だと思う？ 名詞だと思うでしょ。じゃ「I will book the book.」を読んでどう思う？

間違いでしょ。「本を本するだろう」って何ですか？ 先生がウソを教えちゃいけませんね。

これで正しいんだ。後で教えよう。

はあ…。心配になってきました。





● GUIDANCE

1 そもそも「品詞」とは？

① 単語をその「はたらき」によって種類分けする

日本語にも「名詞」や「動詞」などの語の分類がありますね。「詞」が単語のことです。この種類分けした表し方を品詞といいます。「単語 dog の品詞は何ですか？」と問われたら「名詞です」と答えます。なんの役に立つのでしょうか。

高校で英語と古文を学ぶとき、「品詞」を理解して区別できることが大変重要です。この2つの科目に共通しているのは「私たちはネイティブではない」ということです。古文は日本語ですが、自然には使えません。「ほぼ外国語」です。日常的に使わないので「文法」を学んで、ルールに沿って身につけるのが最も効率の良い方法なのです。

② すべての英単語は「10 種類の品詞」に分類できる

英単語の種類は「10」です。世界にある無数の英単語が（これから生まれる語も含めて）必ず 10 種類のどれかに分類されます。そして、品詞ごとに、文の中での役割や意味が変わります。これから説明します。

③ 名詞・代名詞・動詞・助動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞・冠詞・間投詞

以上の 10 種類です。名詞と代名詞を 1 グループにし、動詞と助動詞を 1 グループにして、8 種類という考え方もあります。どちらでもかまいません。本書はさしあたり 10 種類で進めます（後でグループ化します）。

④ 不定詞や動名詞はここに入らないの？

入りません。不定詞は「to と動詞（原形）」の組み合わせで、品詞が定まらないためについた名なので、ここでは数えません。動名詞は、分類すると名詞です「動（詞が変形した）名詞」と理解してください。

● 代表的な品詞の例

名詞	具体的なものの名	dog, bird, woman, father, cup, window, egg, ship, moon, John, Ayaka...
	数えられないものの名	paper, water, air, coffee...
	実体のないものの名	job, day, hope, sound, mind, future...
代名詞	名詞を代用する	I, you, he, she, they, this, it, that, something...
動詞	自分で完結する動作	run, sleep, look...
	何かに働きかける動作	give, send, tell, break, get...
	状態や様子の変化	be(am, is, are, was, were), become, keep, stay...
助動詞	時間や性質を補足	will, shall, can, may, must, do(does, did)...
形容詞	名詞の状態を説明	good, bad, hot, beautiful, far, wide, short, hard, big...
副詞	動詞や形容詞を補足	yes, no, very, too, sometimes, well, really...
前置詞	名詞の前に配置	at, in, on, to, for, from...
接続詞	複数の文などをつなぐ	and, because, so, or, but...
冠詞	名詞の前につく	a, an, the（これで全て）
間投詞	独立した語・感情など	wow, oh...



全部を正確に覚える必要は今のところないからね。次は特に重要な3つの品詞をチェックしよう。



2 重要なのは名詞・動詞・形容詞！

① 文を構成する要素になるのは名詞・動詞・形容詞のみ

英語の「文（ピリオドで終わる単語の集まり）」は、ただ1単語の「Yes.」「Go.」などから、何十という単語が続くものまであります。特に、高校で学ぶ英文は、どんどん長くなります。

しかし、どんな長い文でも、その文の「要素（骨格）」になっている単語を見抜くことができれば、意味をつかむことができます。そのような「要素」になる単語の品詞が名詞・代名詞・動詞・形容詞なのです。

なお、本書ではこの後、**【名詞】には代名詞を含むもの**としてあつかいます。



昨日私は読みかけのマンガをどうしようか迷ったが、このままだと遅刻してしまうし、マンガよりも英単語の品詞の学習のほうが大切だとよくわかっていたので、素敵な先生にほめられたくて、青いテキストをもって走った。



色々無理がある文ですが、要するに「私は走った」ですね。

② 文の4要素

「要素」とはどうしても欠かせない重要なもののことです。英語の文は、次の4つの要素でできています。

() 中のアルファベットはそれぞれの略号です。これから何回も使います。覚えてください。

主語 (S) 動詞 (述語動詞: V) 補語 (C) 目的語 (O) 以上の4つが最重要です。

これ以外は全部、それほど重要ではなく 修飾語 (M) としてまとめられます。

▶ 文の4要素は 主語・動詞 (述語動詞)・補語・目的語～それ以外はすべて修飾語

▶ 文の4要素は 名詞 (+代名詞)・動詞・形容詞 のどれかだけになる

▶ 主語: 名詞 (+代名詞) 動詞 (述語動詞): 動詞 補語: 名詞または形容詞 目的語: 名詞

③ 品詞の名前と文の要素の名前

だんだん混乱してきたかもしれません。ここで「品詞」と「文の要素」についてまとめます。

日本語で考えます。文「ケン is 激しく笑った。」の要素を確認します。

「ケン is」が主語で、「笑った」が述語で、「激しく」は修飾語です。要素は、文の中でどのような役割をもつかを分類したものです。

「名詞」は「ケン・動物園・スマホ」などですね。動詞は「笑う・食べる・心配する」など。「ずっと・そっと・やや」などは副詞です。

では、英語の例文を見てください。



S	+	V	+	O	
主語	+	動詞	+	目的語	修飾語
Ken		plays		tennis	well.
ケンは		する		テニス (～を)	上手に

品詞は「主語: Ken」が名詞・「動詞: plays」が動詞・「目的語: tennis」が名詞・「修飾語: well」が副詞です。後で詳しく説明します。ここでは「こんな感じが…」くらいで OK です。

3 追加：そもそも「文」って何ですか？

① 文とは「ある物事（主語）の状態を説明する」のが基本

「私は困っている」は「私（主語）の状態＝困っている」を説明しています。「ボブは全部覚えた」「彼は笑顔になった」は、主語の動作や変化を説明しています。「説明する」を別の言い方にするすると「述べる」となります。これが述語「主語について述べる（説明する）語」の由来です。

② 日本語の「文」は2種類に分けられる

「文」とは、主語について述べるものです。この「述べる」語が述語です。

では、この観点から日本語の文を見ると、何種類に分類できるでしょうか。ある有力な説では2種類です。なお、主語は日本語でも必ず名詞と決まっているので、述語の品詞で分類しています。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 一 述語が動詞である文 | ボブは走る。ボブは花を買った。 |
| 二 述語が名詞・形容詞・形容動詞である文 | ボブは医者だ・ボブは優しい・ボブは長身だ。 |

一は、ボブの動作などを述べています。二は、「ボブ＝医者」「ボブ＝優しい」のように、主語と述語をイコールで結ぶことができるように述べています。

③ 英語の「文」も2種類に分けられる

同じように、英語の文も分類します。英語には、動詞（述語動詞）が必須なので、動詞の種類で区別します。

- A 動詞が動作を示す文 Bob runs. Bob bought the flower. Bob gave me the flower.
- B 動詞が名詞・形容詞に続く文 Bob is a doctor. Bob is tall.

Aは、ボブの動作などを述べています。Bは、「ボブ=学生」「ボブ=長身」のように、主語と動詞の後の語をイコールで結ぶことができるように述べています。

このように、日本語も英語も、文の本質的な性格はほぼ同じです。「主語の動作を述べる」「主語の性質を述べる（イコールで結ぶ）」の2種類、です。これから学ぶ「5文型」とは、その発展形です。

④ 英語でいちばん大切なのは動詞

「5文型」は高校英語の大切な入口です。英語における「文型」とは、「要素」がどのような順番で並んでいるか、による分類です。上では2種類でしたが、「A 動詞が動作を示す文」がこのあとの1, 3, 4, 5の合計4つに分かれます。「B 動詞が名詞・形容詞に続く文」はこの後の2になります。合計「5文型」です。

- | | | |
|---|-------------------|--|
| 1 | 動詞に動作の目的がない文 | Bob runs. |
| 2 | 動詞が名詞・形容詞に続く文 | Bob is a doctor. Bob is tall. |
| 3 | 動詞に動作の目的が 1 つある文 | Bob bought the flower. |
| 4 | 動詞に動作の目的が 2 つある文 | Bob gave me the flower. |
| 5 | 動詞に動作の目的とその説明がある文 | Bob calls me Ai. (me = Ai. という関係が成り立つ) |

⑤ 「文型」とは動詞によって決まる「文の形と語順」のこと

結局、文型って何なのでしょう。英語でもっとも重要な要素であり、品詞であるのは【動詞】です。

日本語に比べると英語は「主語」や「述語」のような要素の名前の中に「動詞」という品詞の名前がまぎれこんでいて違和感を感じた人もいるでしょう。そもそも動詞を表す英単語「verb」のものは「word」でした。つまり、動詞とは「語そのもの」という意味の語なのです。だから、要素としても使われています。日本語にすると「主語＋動詞」では少し不自然なので「述語動詞」という人もいます。本書ではこれから後は「動詞」で表します。

ともかく、このページも、だいたいOKです。

次のページから問題に進みます。

途中から、品詞の説明じゃなくなって「文型」になっていませんか？「だいたいわかればいい」ってことなので、気にしないことにします。もしかしてこれ、伏線ですか？



トレーニング

品詞の分類 level - 1 ◆品詞名の指摘

次の英文の下線部の語の品詞名をそれぞれ答えなさい。

- (1) I often play soccer after school.

▷ヒント：play の最も一般的な使い方

[詞]

- (2) She speaks English well.

▷ヒント：well は speak を修飾している

[詞]

- (3) He always helps his friends.

▷ヒント：複数形になっている

[詞]

- (4) I bought a new bicycle yesterday.

▷ヒント：new は bicycle を修飾している

[詞]

- (5) They quickly finished their homework.

▷ヒント：名詞が置き換えられている

[詞]

- (6) Because it was raining, we stayed at home.

▷ヒント：カンマで前後2つの文がつながっている

[詞]

- (7) The cat sat on the chair.

▷ヒント：on は名詞を導く品詞

[詞]

- (8) He speaks English well.

▷ヒント：文頭以外でははじめが大文字になる単語

[詞]



練習問題



品詞の分類 *level - 1* ◆品詞名の指摘

次の英文の下線部の語の品詞名をそれぞれ答えなさい。

(1) The train arrived late because of the heavy rain.

[詞]

(2) This is my favorite song.

[詞]

(3) He ran to the station to catch the train.

[詞]

(4) He bought a book and a pen.

[詞]

(5) The kids were playing in the garden.

[詞]

(6) I saw beautiful flowers in the park.

[詞]

(7) I taught her English.

[詞]

(8) We call him Takeshi.

[詞]

introduction

第2回 5文型入門

あの、疑問なんですけど。そもそも、どの単語がどの品詞だって、あんまり大切な気がしないんです。読んで意味がわかればいいでしょ。だったら、「これが名詞」とか、いらない気がするんですが。



そうだね。そう感じるだろうね。でも、品詞それから文型がわからないと、意味を間違えてしまうことがあるんだ。じゃ、さっきの I will book the book. をどう訳そうか。また、You must water the plant. をどう訳す？

ああああ…。変だっけのはわかります。「私は本を本するだろう」?? 「あなたはその植物を水しなければならない」?? 間違いはわかりますが、どう書き直したらいいのかまるでわかりません。



いやあ、どっちも正しい文なんだ。訳は「私はその本を予約する」「あなたはその植物に水をやらなければならない」。「book」も「water」も動詞として使われる場合があり、そうすると意味が変わる。これ、文型と語順で判断するんだ。

文型と語順…また、難しいことを。でも、聞いたことがあります。英語は語順が何より大切で、世界の言語の中でも特に語順に厳しい、って。関係ありますか？



うん。日本語は実にルーズだね。「私は本を買った」「本を買ったよ、私は」どっちでも構わない。でも「I buy the book.」を「Book the I buy.」とはできない。主語>動詞>目的(語)という順番は、絶対に変えてはいけないんだ。

そうですか。う～ん、それって「You must water the plant.」の water は、場所からして動詞しかありえない、だから「水をやる」ってなるんですか？「単語の意味は場所と品詞で決まる」ですか？



素晴らしい！ そのとおりだ。「book」の場合は、動詞の「予約する」と、名詞の「本」という意味がある。どちらであるかは、まず場所を見て、次に品詞を判断するとわかる。いやあ、それだけ説明できればこの先も安心だね。

これはマンガだからねえ。

ありがとうございます。でも、自分で答えた気がしません。何か、説明の都合で答えさせられたような感じです。

はあ…。全く安心できませんねえ…。



第2回 5文型・入門



● GUIDANCE

1 そもそも文型って何ですか？

① 英語の「文」の骨格を分類した結果です

「文」とは、日本語では「。」英語では「.」で区切られる言葉の単位ですね。英語の文の種類を考えると「平叙文(ふつうの文)」「疑問文」「命令文」「感嘆文」などが記憶にあるでしょう。以上は、「どのようなことを伝えるための文か」で分類したものです。また、主語が何か、に着目して「一人称の文」「二人称の文」「三人称の文」と分けることもあります。時制(時間)に着目して「過去の文」「現在の文」「未来の文」と分けることもできます。

本書の主題である「5文型」は、「動詞」に着目して分ける方法です。

② 最も重要な「動詞」がその文の型を決める

すでに述べたように、英単語の品詞は「10種類」です。世界にある無数の英単語が(これから生まれる語も含めて)必ず10種類のどれかに分類されます。そして、品詞ごとに、文の中での役割や意味が変わります。この後で説明します。

なお、英文において最も重要なのは「動詞」です。文の中心にあたる動詞が、その後に続く語の種類や順序を決めるのです。動詞によって英文の型が決まる、その決め方を分類したのが「5文型」です。もっと少なく数える人やもっと多く数える人もいますが、日本での標準は5文型です。

2 文型を学ぶために (復習)

① 文の「要素」になるのは名詞・動詞・形容詞

英語の文は、次の4つの要素でできています。() 中のアルファベットはそれぞれの略号です。

主語 (S) 動詞 (述語動詞: V) 補語 (C) 目的語 (O) 以上の4つです。

これ以外は全部、それほど重要ではなく 修飾語 (M) としてまとめられます。

▶ 文の4要素 主語・動詞 (述語動詞)・補語・目的語～それ以外はすべて修飾語

▶ 4要素になる品詞 名詞 (代名詞)・動詞・形容詞 のどれかがなる

▶ 主語: 名詞 (代名詞) 動詞 (述語動詞): 動詞 補語: 名詞または形容詞 目的語: 名詞

② 「動詞」で決まる5つの文型

第1文型 動詞に動作の目的がない文	S + V	主語 + 動詞 Bob runs.
第2文型 動詞が名詞・形容詞に続く文	S + V + C	主語 + 動詞 + 補語 Bob is a doctor. Bob is tall.
第3文型 動詞に動作の目的が1つある文	S + V + O	主語 + 動詞 + 目的語 Bob bought the flower.
第4文型 動詞に動作の目的が2つある文	S + V + O + O	主語 + 動詞 + 目的語 + 目的語 Bob gave me the flower.
第5文型 動詞に動作の目的とその説明がある文	S + V + O + C	主語 + 動詞 + 目的語 + 補語 Bob calls me Ai. (me = Ai. が成り立つ)

3 5文型まとめ

S : 主語 V : 動詞 C : 補語 O : 目的語

わかりやすくするために、文型と、英語・日本語の例文をならべます。

◆第1文型 主は、動する（行く・走る・眠るなど）【彼は走る】最もシンプルな文型です。

例文1	S	+	V
	主語	+	動詞
	He		runs.
	彼は		走る

◆第2文型 主は、補である（OO・～い・～だなど）【彼は学生である】主語と補語がイコールのようにになります。

例文2	S	+	V	+	C
	主語	+	動詞	+	補語（主語とイコールの関係で表現できる語）
	He		is		a student.
	彼は		～である		学生

◆第3文型 主は、目的を動する（作る・知る・書くなど）【彼は手紙を書いた】最も多く使われる文型です。

例文3	S	+	V	+	O
	主語	+	動詞	+	目的語（動作の目的・対象）
	He		wrote		a letter.
	彼は		書いた		手紙（を）

◆第4文型 主は、目的に、目的を、動する（与える・送るなど）【彼はボブにカードをあげた】「～に、～を」です。

例文4	S	+	V	+	O	+	O
	主語	+	動詞	+	目的語（～する相手）	+	目的語（～する中身）
	He		gave		Bob		cards.
	彼は		あげた		ボブ（に）		カード（を）

◆第5文型 主は、「目的＝補」と、動する（知る・認めるなど）【彼は私をボブと呼ぶ】難しいので、詳しくは後で。

例文5	S	+	V	+	O	+	C
	主語	+	動詞	+	目的語	+	補語（目的語の補語）
	He		calls		me		Bob.
	彼は		呼ぶ		私（を）		ボブ（と）

「難しいので、後で」って、ひどくないですか？
え？「今すぐしっかり教えてやる」って？
あ、忘れてください。また後で…、はい。



トレーニング

5 文型・入門 *level - 1* ◆文型の指摘

次の英文がそれぞれ、第1文型～第5文型のうちのどれにあたるのか答えなさい。

(1) The dog barks.

▷ヒント：3 単現の s が付くものは動詞

[第 文型]

(2) She gave me a book.

▷ヒント：a book はひとかたまりで前置詞は無い

[第 文型]

(3) She is happy.

▷ヒント：be 動詞を使っている

[第 文型]

(4) I like apples.

▷ヒント：apples は like の対象となっている

[第 文型]

(5) They made him a leader.

▷ヒント：him = a leader となる・また、ひとかたまりで前置詞は無い

[第 文型]

(6) They built a house.

▷ヒント：built は build の過去形

[第 文型]

(7) The sun rises in the east.

▷ヒント：in 以下はすべて修飾語

[第 文型]

(8) We sent him a letter.

▷ヒント：sent は send の過去形

[第 文型]

(9) The soup tastes good.

▷ヒント：taste は「味がする」を意味する動詞

[第 文型]

(10) We found the room clean.

▷ヒント：found は find の過去形

[第 文型]

トレーニング

5 文型・入門 level - 2 ◆S・V・O・Cの指摘

次の英文の主語 (S)・動詞 (V)・目的語 (O)・補語 (C) それぞれの下に、S, V, O, C のいずれかの文字を書き加えなさい。あてはまる語が無い場合は書かなくてよい。

(1) The dog barks.

▷ヒント：これは第 1 文型

(2) She gave me a book.

▷ヒント：目的格の代名詞は O

(3) She is happy.

▷ヒント：be 動詞でつながっているものは C であることが多い

(4) I like apples.

▷ヒント：apples を代名詞で示すと them

(5) They made him a leader.

▷ヒント：him = a leader の関係性になる

(6) They built a house.

▷ヒント：a house を置き換えると it

(7) The sun rises in the east.

▷ヒント：rises は rise の三単現

(8) We sent him a letter.

▷ヒント：him = a letter にはならない

(9) The soup tastes good.

▷ヒント：taste を be 動詞に置き換えて意味が成り立つかどうか

(10) We found the room clean.

▷ヒント：the room = clean の関係性になる



5 文型・入門 *level - 1* ◆文型の指摘

次の英文がそれぞれ、第1文型～第5文型のうちのどれにあたるのか答えなさい。

(1) Birds sing.

[第 文型]

(2) They saw a movie.

[第 文型]

(3) He reads books.

[第 文型]

(4) She made me happy.

[第 文型]

(5) They showed us a picture.

[第 文型]

(6) The sky became dark.

[第 文型]

(7) He looks tired.

[第 文型]

(8) I taught her English.

[第 文型]

(9) She runs in the park.

[第 文型]

(10) We call him Tom.

[第 文型]



5 文型・入門 *level - 2* ◆ S・V・O・C の指摘

次の英文の主語 (S)・動詞 (V)・目的語 (O)・補語 (C) それぞれの下に、S, V, O, C のいずれかの文字を書き加えなさい。あてはまる語が無い場合は書かなくてよい。

- (1) We called him Tom.
- (2) The sky will become dark.
- (3) He read books.
- (4) They will see a movie.
- (5) A bird sings.
- (6) I usually teach her English.
- (7) He looked tired.
- (8) She will make me happy.
- (9) She ran in the park.
- (10) They will show us a picture.

introduction

第3回 第1・第2文型

第1文型って、「最もシンプル」でしたよね。I walk. とか。
第2文型は He is tall. でしょ。これなら一瞬で終わりますね。今回は楽勝ですね。



そうだね。前にも言ったように、英文は、(述語)動詞が必ず主語の後にあり、それが「一般動詞を使うもの：動作や変化を述べる」と「be動詞を使うもの：状態を述べる」に分かれる。今回はその最初だ。たしかに文型はシンプルだね。

「文型はシンプルだ」って、何か引っかかりますね。文型はシンプルなのに、ややこしい文があるってことですか？



これはどう？ Bob ran. の発展形だ。Last Sunday, a tall Australian boy, Bob ran to the shop in center of Sapporo City to buy four eggs and three bottles of water. これは第1文型。主語 Bob, 動詞 ran で、あとは全部修飾語なんだ。

……。話がちがいます。そんなの今日のテーマと関係ないとは言いませんが、行き過ぎでしょう。そうすると、第2文型にもそんな不気味な文があるんですね。一体、なんのために学んでるんですか？？？



その疑問が大切だね。今の不気味に(笑)長い文だけど、文型がわかると、要するに「ボブは走った」ってことがわかる。その後で「この前の日曜日」「背の高いオーストラリア人少年」「札幌市の中心にある店」…を順に訳せばいい。

なるほど。大事なことが見えるようになるといい、ってことですか。日本語でも長くてややこしい文は「主語と述語をまずチェック」って教わりました。同じことですか？



よく気がついたね。そうやって、理解してくれば安心だ。そう、日本語では「主語と述語」、英語では「主語と動詞」にまず目をつけるんだ。すごいぞ。ナイス！ どんどん進めよう。いやあ、楽しみだ。

セリフがだんだん棒読みになってきてませんか？ かえって心配になってきました。



I agree. これ、第1文型ね。

そんなこと同意しないでください。もうっ！



● GUIDANCE

1 第 1 文型 S + V 主語 + 動詞

① 主語は、動詞（行く・歩く・寝るなど）する

何のことかわかりにくいでしょうから、文型と、英語・日本語の例文をならべます。最もシンプルなタイプです。

例文 1	S	+	V
	主語	+	動詞
	He		runs.
	彼は		走る

次は、最後に修飾語がつきます。to, on, for, at などの前置詞を用いる語は原則、修飾語です。文の骨格は変わりません。

例文 2	S	+	V	+	M
	主語	+	動詞	+	修飾語
	I		go		to the park every day.
	私は		行く		その公園に毎日

次も、最後に修飾語がつきます。to, on, for, at などの前置詞を用いる語は原則、修飾語です。文の骨格は変わりません。

例文 3	S	+	V	+	M
	主語	+	動詞	+	修飾語
	Lisa		looked		at the picture.
	リサは		見た		その絵を

▶ 第 1 文型は、「私^Sは 歩く^V」という、最もシンプルな文型です。

第 1 文型の動詞は「自動詞」といいます。詳しくは本書の最後にあります。今は、次のことがわかれば OK です。

「自動詞」とは、主語の動作を表しますが、その動作が他の何にも影響を与えない動詞です。他の何かに影響を与える動詞を「他動詞」と呼びます。日本語でいうと「歩く」は自動詞です。「(誰かを) 歩かせる」になると他動詞です。英語では、同じ動詞が自動詞と他動詞に使い分けられることがあります。「文型」と深く関係します。

第 1 文型は「主語の動作が他の何にも作用しない」文です。上の例文 2 「I go to the park.」は、park 「公園に」が目的語のように見えますが、違います。行っても、公園に影響を与えません。「私はその公園を買った (I bought the park.)」とは異なります。こちらは私が「買う」ことが「公園 (の持ち主)」に作用し、影響します。

動詞の後の語が目的語なのか修飾語に過ぎないのかは「前置詞の有無」によっても区別できます。I painted a picture. の a picture は目的語なので、動詞に直接続きます。「I looked at a picture.」には前置詞が必要です。

第 1 文型



めはは!

主語：私は
動詞：笑う
laugh



そう、「私」は勝手に笑っているだけで、こちらには何も関係ない。「自分で何かするだけ」が第 1 文型だ。

● 他に言い方ないんですかっ!

2 第2文型 S + V + C 主語＋動詞＋補語

① 主語は、補語、動詞である (be, become など)

これまでと同じように、文型・英語・日本語の例文をならべます。第2文型の代表は「be」動詞です。

例文1	S	+	V	+	C	
	主語	+	動詞	+	補語	(主語とイコールで結ぶことができる語)
	He		is		a teacher.	
	彼は		である		教師	彼＝教師、と言える。

もう一つ例文です。こちらは、be 動詞ではない一般動詞ですが、「主語＝補語」と結ぶことができる点は同じです。

例文2	S	+	V	+	C	
	主語	+	動詞	+	補語	(主語とイコールで結ぶことができる語)
	Bob		became		a pianist.	
	ボブは		なった		ピアニスト (に)	ボブ＝ピアニスト、と言える。

もう一つ。look (～に見える) や seem (～のように見える)、sound (～のように聞こえる) などを用いる例文です。「知覚」すなわち、感覚で何かを感じるような意味を持つ動詞です。また、次の例文では修飾語も加えます。

例文3	S	+	V	+	C	+	M
	主語	+	動詞	+	補語	+	修飾語
	Bob		looked		happy		yesterday.
	ボブは		(に) 見えた		幸せそう		昨日
							ボブ＝幸せ、と言える。

▶ 第2文型は、「私は である 教師」《私＝教師》という形で、多く用いられる文型です

英語において第2文型と第3文型が最も多く使われます。最も基本的な言い方です。復習します。日本語における文は2種類に分けられます。①「名詞・形容詞・形容動詞が述語である」(例：私は学生である・ボブは優しい・この街は静かだ)と、②「動詞が述語である」(例：トムはテニスをする)」です。

英語においては①が第2文型 (I am a student. ・ Bob is kind. ・ This town is silent.) です。解説します。

第2文型に「補語」が登場します。第2文型は動作を述べるわけではなく「主語は～である」という「主語＝何か」の構造を有します。be 動詞の文でいうと「You are. (あなたはである)」では文になりませんね。動作の目的ではありませんが、何か補わないと終わりません。このような場合に、動詞 (である・になる、など) を補って文をまとめるのは「補語」なのです。

be 動詞は主語＝補語 (私＝学生) という関係を説明します。一般動詞は主語が変化したり動作したりすることを説明します。この違い、しっかりつかんでください。

第2文型



主語：私は
動詞：である
補語：教師



そうですね。「私」は勝手に教師であるだけで、こちらには関係なく「自分が何かであるだけ」が第2文型ですね。

ちっ、そうきたか。

チェックしておきたい 第1文型・第2文型の動詞

第1文型によく使われる動詞

そのまま S+V (第1文型) となる。場所や「～になる」などの語には前置詞がつく。

listen	listen to ～ でよく使われる
look	look at ～ でよく使われる
go	go to ～ でよく使われる
run	走るは自動詞 (「経営する」は他動詞)
live	live in ～ でよく使われる
stand	stand up ～ でよく使われる
happen	(出来事が) 起こる
get	get to ～ に着く (「得る」は他動詞)
arrive	arrive at ～ に着く
rise	上がる (「上げる」は raise)

第2文型によく使われる動詞

一番多いのは be 動詞。主語と補語をイコールで結びつけられるもの。第2文型の動詞には、感覚で受け止めることを表す動詞が多い。

be	～である
look	～に見える
seem	～のように見える
sound	～のように聞こえる
smell	～のにおいがする
feel	～のように感じる
become	～になる
get	～になる (「得る」は他動詞)
keep	～し続ける

第1文型と第2文型は「一般動詞」「be 動詞」を使う文の原型だから、基本はシンプルだ。そして、これらに使う動詞はあまり多くない。第1文型と第2文型には「目的語」が無い。このような「自動詞」は少ないんだ。

覚える数が少ないってことですね。私、調べましたよ。第2文型の動詞はもっと少ないって。ほとんど「be 動詞」のためにあるような文型だって。これならスイスイ進みますね！

そうなんだが…。第1文型の動詞は、そのままで、第3文型などにも使われる。I got to the store. は「その店に着いた」だね。一方、I got the store. だと「その店を手に入れた (買収か?)」となるんだ。たくさんの動詞がこう変わるんだ。

要するに、たくさん読んで書いて練習しろってことですね。最初からそう言ってくださいよ。

言っていないでもそういうものさ。
これは「教材」だからねえ。

では、トレーニングです！

トレーニング

第1文型 level - 1 ◆主語・動詞の判定

次の英文の主語に下線を、動詞に波線を、それぞれ書き加えなさい。

- (1) Tom and I live in Japan.

▷ヒント：主語は一語とは限らない

- (2) Jun sings very well.

▷ヒント：副詞は動詞にはならない

- (3) There are three cats in the park.

▷ヒント：there is/are 構文は be 動詞の後が主語になる

- (4) Jenny doesn't run fast.

▷ヒント：否定文は一度、助動詞と not を除いて考える

- (5) Does your class start at 8:30?

▷ヒント：疑問文・否定文では動詞の部分が「動詞」「助動詞」の2か所に分かれる

第2文型 level - 1 ◆主語・動詞・補語の判定

次の英文の主語に下線を、動詞に波線を、補語に二重線を、それぞれ書き加えなさい。

- (1) She became a doctor.

▷ヒント：補語は2語以上になることもある

- (2) He seems happy today.

▷ヒント：時を表す言葉は修飾語

- (3) Does the soup taste delicious?

▷ヒント：疑問文は動詞の場所が分かれる

- (4) This book doesn't look interesting.

▷ヒント：否定文、動詞に注意

- (5) His idea sounds great.

▷ヒント：主語がどこまでなのかに注意

トレーニング

第1・第2文型 *level - 2* ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。

- (1) (the / sings / beautifully / bird).

▷ヒント：beautifully は「美しく」を表す副詞

[

]

- (2) (rises / the / sun / east / in / the).

▷ヒント：rise は「昇る」を表す

[

]

- (3) (quickly / the / runs / dog).

▷ヒント：quickly は「素早く」を表す副詞

[

]

- (4) (to / walks / school / every day / he).

▷ヒント：日時を表す語は最後に置く

[

]

- (5) (falls / snow / winter / in).

▷ヒント：fall は「降る・落ちる」を表す

[

]

- (6) (tired / looks / he / always).

▷ヒント：always は主語と一般動詞（be 動詞以外）の間に置く

[

]

トレーニング

(7) (is / sunny / it / today).

▷ヒント：天気を表すときの主語は it

[

]

(8) (strong / sounds / his / voice).

▷ヒント：主語がどこまでかに注意

[

]

(9) (sweet / smells / flower / this).

▷ヒント：smell は「においがする」という意味の動詞

[

]

(10) (small / seems / very / this / room).

▷ヒント：seem は「～のように見える」という意味の動詞

[

]

トレーニング

第1・第2文型 *level - 3* ◆単語を正しく並べかえる

次の語を並べかえて正しい英文を完成させなさい。なお、不要な語が一つあるので、それを除いて並べかえること。

- (1) (they / fast / run / park / in / the / fish).

▷ヒント：主語が何 / 誰かを考える

[

]

- (2) (looks / very / your / dog / angry / on / always).

▷ヒント：動詞から文型が推測できる

[

]

- (3) (became / he / suddenly / quiet / money).

▷ヒント：suddenly の場所に注意

[

]

- (4) (arrived / on / train / platform / at / the / the).

▷ヒント：不要な語は the ではない

[

]

- (5) (this / tastes / soup / delicious / strongly).

▷ヒント：文脈に合わない修飾語がある

[

]



第1・2文型 *level - 1* ◆主語・動詞・補語の判定

次の英文の主語に下線を、動詞に波線を、補語がある場合は二重線をそれぞれ引きなさい。

(1) The cat sleeps on the couch.

(2) She is a talented singer.

(3) The sky turned dark.

(4) My friend seems tired today.

(5) The cake tastes delicious.

(6) Birds fly in the sky.

(7) The baby looks happy.

(8) We exercise every morning.

(9) The wind blows strongly.

(10) He sings beautifully.



第1・2文型 *level - 2* ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえ、正しい英文を完成させなさい。

(1) (in the garden / bloom / the flowers).

[

]

(2) (became / they / best friends).

[

]

(3) (run / in the park / every morning / we).

[

]

(4) (at the concert / performed / the band).

[

]

(5) (a surprise / was / the party / for everyone).

[

]

(6) (arrived / at the station / the train / on time).

[

]

(7) (look / tired / the students).

[

]

(8) (shine / the stars / brightly / at night).

[

]

(9) (successful / became / their business).

[

]

(10) (beautiful / on stage / her voice / sounds).

[

]



第1・2文型 *level - 3* ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。なお、不要な語が一つあるので、それを除いて並べかえること。

(1) (reads / brother / often / the library / in / night / my / the books).

[]

(2) (swim / they / the sea / in / morning / every / river).

[]

(3) (sounds / listens / relaxing / the / music / very).

[]

(4) (seems / problem / that / very / sample / simple).

[]

(5) (the / crossed / dog / the street / with) suddenly.

[]



第 1・2 文型 *level - 3* ◆日本語から第 1・2 文型の英文に正確に訳す

次の日本語を 1 文の英語に訳して書きなさい。

- (1) 昨夜、私たちは雨の中を駅まで歩いた。

[

]

- (2) この映画は子供たちにとっても面白そうに思える。

[

]

- (3) 彼の顔はいつも幸せそうだ。

[

]

- (4) 彼らは海で泳いだ。

[

]

- (5) 私たちは夕食後に歩いた。

[

]

]

introduction

第4回 第3・第4文型

3番目、4番目の文型ってことは、今までより長くなる
んですか？ それから、この2つには共通点でもあるん
ですか？



いい感じで疑い深くなったわね。第3文型と第4文型は、「目
的語を必要とする動詞」を使う点で、同じようなもの。第
1文型と第2文型の動詞は、自分自身が動作したり、それ
自体を説明したりで、外の何かには影響しなかったでしょ。

ただ単に「走る」とか「～である」、でしたね。これから
は動作に「目的」があって、それを表すのが「目的語」っ
てことですか？ いい推理でしょ？



うん、いいね！ 日本語の動詞で考えてみましょう。「私は困っ
た」はそれでおしまいね。「なぜ」や「～について」がよく
つくけど、無くても困らない。でも「私は困らせた」だと「誰
を？」って質問せずにはいられないでしょ。

う～ん…その例だと、続きを聞かないほうがいいような
気もしますが…。ま、でも「私は食べた」って言われたら、
「何を？」とはなりますねえ…。そうか！「私はカエルを
食べました」という場合の「カエル」が目的語ですね。



I ate a frog. もうっ、私は食べてませんからねっ！ あなたの
例もあまり聞きたくないわね…誰の影響かしら。ともあ
れ、この場合の「a frog」が目的語。「食べた」に対する「何
を？」への答えなの。これが第3文型。

S+V+O ですね。じゃ、第4文型はどうなるんですか？
ああ、最初にありましたね。S+V+O+O って。こんな感
じですか？ 「私は昨日カエルとカタツムリを食べまし
た」。これで目的語が2つ並びましたよ。



(フランス料理食べたのかしら？) いいわね。でも惜しい。
それは第3文型。第4文型は、「私はあなたに教えてあげ
る、すごい秘密をね」って感じ。気になるでしょ？ 「あ
なた」と「すごい秘密」が2つの目的語。順に並べるだけ。

そんな秘密、知ってもいいことなさそうですね。言い換
えるなら「You mustn't tell me the secret.」ですか？



正解！ でも生意気だから減点。

やれやれ…。



● GUIDANCE

1 第3文型 S + V + O 主語＋動詞＋目的語

- ① 主語は、目的語に、動詞（好む・する・買うなど）する。

何のことかわかりにくいでしょうから、例によって、文型と、英語・日本語の例文をならべます。

S	+	V	+	O
主語	+	動詞	+	目的語（動作の目的・対象）
He		wrote		a letter.
彼は		書いた		手紙（を）

もう一つ例文です。こちらは、最後に修飾語がついています。ただし、文の骨格は変わりません。

S	+	V	+	O		
主語	+	動詞	+	目的語	+	修飾語
I		play		tennis		every day.
私は		する		テニス（を）		毎日

さらにもう一つ。「～を与える」です。ここに「誰に」が欲しくなります。この例のように、修飾語として加える場合と、「もう1つの目的語」として動詞の直後に配置する場合があります。「もう1つの目的語」を使うのが「第4文型」です。

S	+	V	+	O		
主語	+	動詞	+	目的語	+	修飾語
Akiko		gave		a book		to me.
アキコは		くれた		本（を）		私（に）

▶第3文型は、「^S彼は ^V書いた ^O手紙（を）」という形で、最も多く用いられる文型です

英語において第2文型と第3文型が最も多く使われます。最も基本的な言い方です。復習します。日本語における文は2種類に分けられます。①「主語は述語である（例：私は学生である・ジョンは優しい）」と②「主語は述語する（例：トムはテニスをする）」です。

英語においては①は第2文型（I am a student.・John is kind.）、②は第3文型です（Tom plays tennis.）。ここを少し詳しく解説します。日本語の①は、「主語の状態や存在を説明する文」です。一方②は「主語の動作や変化を説明する文」なのです。英語では①はbe動詞（am, are, is, was, were など）の文であり、②が一般動詞（be動詞以外：get, make, run, eat, see... など）の文です。

be動詞は主語＝補語（私＝学生）という関係を説明します。一般動詞は主語が変化したり動作したりすることを説明します。これだけのこと、しっかりつかんでください。

▶第2文型 S = C

▶第3文型 S ≠ C このように比較することもできます。

第3文型



主語：私は

動詞：ほめる
いいね！

目的語：彼



いつもそうやってほめてくれても誰も文句言いませんからね。どうぞ、遠慮なくほめてくださいっ！

2 第4文型 S + V + O + O 主語 + 動詞 + 目的語 + 目的語

- ① 主語は、目的語（誰か）に、目的語（何か）を、動詞（与える・送る・教えるなど）する
何のことかわかりにくいでしょうから、例によって、文型と、英語・日本語の例文をならべます。

S	+	V	+	O	+	O
主語	+	動詞	+	目的語（～する誰か）	+	目的語（～する中身）
He		gave		Bob		cards.
彼は		あげた		ボブ（に）		カード（を）

もう一つ例文です。2つの例文から、第4文型がどのような動詞のときに用いられるのか想像してください。

S	+	V	+	O	+	O
主語	+	動詞	+	目的語（～する誰か）	+	目的語（～する中身）
She		told		him		her secret.
彼女は		教えた		彼（に）		彼女の秘密（を）

何となくイメージできましたか。第4文型とは「誰かが誰かに何かを送る」といった文なのです。届けるものの中身はモノだったり、情報だったりします。どちらにしても「送る・届ける・知らせる・教える」といった意味の動詞は、多くの場合、第4文型を作るのです。

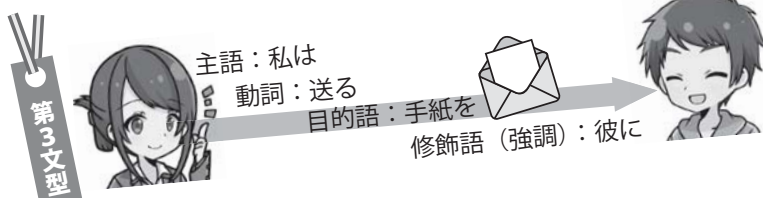
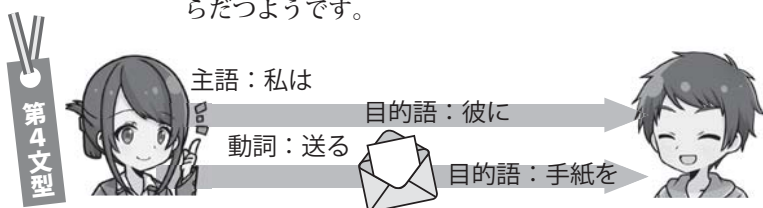
ただし、例外もあります。それは、上で見せた「誰かが誰かに何かを送る」の目的語をひっくり返し「誰かが何かを誰かに送る」とする場合です。日本語では一見して、何も変わりません。日本語は語順にルーズだからです。英語は語順にとてつもないので、この場合はただの順番チェンジではなく、文型が変わります。第3文型になります。

S	+	V	+	O	+	修飾語
主語	+	動詞	+	目的語	+	修飾語
Akiko		told		her secret		to Taku.
アキコは		教えた		彼女の秘密（を）		タク（に）

▶このタイプの第3文型は、「誰に」を強調したいときに使われます

英語では「重要な情報」をわざわざ最後に置くことがあります。この場合は、単に「アキコはタクに彼女の秘密を教えた」ではなく「アキコは彼女の秘密を教えたんだ、タクにね!」のようなニュアンスになります（少しどきどきするかも…多分考えすぎです）。

なんでわざわざ第4文型を第3文型にするような、めんどろなことをするのか？ と、疑問を感じた人もいるでしょう。「なぜ？」にはうまく答えられません。「そう決まっているから」というほかないのです。逆に英語ネイティブからしたら、なぜ日本語では、「私は私の秘密をあなたに教えた」と「私はあなたに私の秘密を教えた」が語順が違うだけで、同じ意味になってしまうのが理解しにくいのでしょうか。このあたりは、語順に特別に厳しい英語と特別にゆるい日本語の違いなのです。ちなみに外国人の多くは、日本語の数え方「人参1本、サンダル2足、ゴマ4粒…」などに、かなりいらだつようです。



チェックしておきたい第4文型の主な動詞と例文

第4文型に使われる動詞

誰かに何かを送ったり、贈ったり、伝えたりする意味を持つ動詞のグループ。

- give (～に～を) 与える
- buy (～に～を) 買ってあげる
- send (～に～を) 送る
- tell (～に～を) 話して教える
- teach (～に～を) 教える
- sell (～に～を) 売る
- show (～に～を) 見せる, 示す
- write (～に手紙を) 書く
- find (～に～を) 見つけてあげる
- lend (～に～を) 貸す
- hand (～に～を) 手渡す
- cause (～に～を) もたらす

第4文型の例文

誰かに何かを送ったり、贈ったり、伝えたりするという意味を持つ動詞・文のグループ。

- He gave me flowers.
- He buys me flowers every day.
- Taku sent me an e-mail yesterday.
- She told me her secret last month.
- The teacher teaches me English.
- I will sell you this computer.
- Aiko shows me her notebook every day.
- Taku wrote Aiko a love letter.
- I will find you the book you lost.
- I can lend him my dictionary and phone.
- Please hand me your money.
- The earthquake will cause this city tsunami.



文型も少しむずかしくなるね。じゃあ、問題。次の文は第何文型でしょう？ 10秒以内に答えてね！

I gave dolls of an English man and a Japanese woman to the man dancing on this green table.

長っ…、さては第4文型？ でも、動詞 gave の後にすぐ「何を」があり、その後に「誰に」がある…第3文型ですね！



正解っ！ そうね、「長いから」で選んじゃいけない。S「I」+ V「gave」+ O「dolls」で、あとは「to」があるので修飾語。だから第3文型ね。だんだん慣れてきたようね。じゃあ練習しましょ。

おなじみのパターンですね。ほめられて嬉しいから、何でも言うとおりにすると思ったら間違いです…ま、やりますけど。



では、トレーニングです！

トレーニング

第3文型 level - 1 ◆文型の判定

次の英文がどの文型か答えなさい。(1～3までの数字で答えること)

- (1) She reads a book.

▷ヒント：当然、She = a book ではないので…

[第 文型]

- (2) I am interested in English.

▷ヒント：前置詞が使われていることに注目

[第 文型]

- (3) This music sounds great.

▷ヒント：sounds を be 動詞に換えても文が成立するか、に注目

[第 文型]

- (4) I met a famous soccer player last night.

▷ヒント：a famous soccer player は him / her に置き換えが可能

[第 文型]

- (5) They knew the difference between French and German.

▷ヒント：補語も目的語も複数の単語で作られることがある

[第 文型]

第3文型 level - 2 ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。(文頭の単語は大文字ではじめること)

- (1) (an apple / he / eats).

▷ヒント：2つある名詞のどちらを主語にすると文が成り立つか

[]

- (2) (their / they / homework / before / dinner / finished).

▷ヒント：主語は they なので、その後を考える

[]

- (3) (found / under the table / I / the key).

▷ヒント：前置詞をともなう語群は、修飾語である

[]

トレーニング

- (4) (a new bike / he / yesterday / bought).

▷ヒント：「昨日」を表す語は最後に配置される

[

]

- (5) (she / an / book / read / yesterday / interesting).

▷ヒント：名詞の前に置かれる冠詞 a が an になっていることに注目

[

]

第3文型 *level - 3* ◆日本語から第3文型の英文に正確に訳す

次の日本語を第3文型の1文の英語に訳して書きなさい。

- (1) 私は昨日、新しい本を買った。

▷ヒント：「買う」buyの過去形はbought

[

]

- (2) 彼は毎朝コーヒーを飲む。

▷ヒント：「3単現のs」をつけ忘れないように

[

]

- (3) 私たちは昨晚、その映画を見た。

▷ヒント：「見る」はseeを使う

[

]

- (4) 彼女は昨夜手紙を書いたんだ、友達にね。

▷ヒント：「友達に」はto one's friend

[

]

- (5) 彼女は毎日英語を勉強する。

▷ヒント：studyの「3単現のs」のつけ方に注意

[

]



第3文型 *level - 1* ◆文型の判定

次の英文がどの文型か答えなさい。(1～3までの数字で答えること)

(1) The cat catches a mouse.

[第 文型]

(2) He became angry.

[第 文型]

(3) He runs every morning.

[第 文型]

(4) She didn't finish her homework.

[第 文型]

(5) I will visit my grandparents tomorrow.

[第 文型]

第3文型 *level - 2* ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。(文頭の単語は大文字ではじめること)

(1) (she / the team / the rules / explained / to).

[

]

(2) (I / a book / the library / borrowed / from).

[

]

(3) (a letter / night / he / last / wrote).

[

]

(4) (studied / yesterday / English / we).

[

]

(5) (reads / every day / father / my / the newspaper).

[

]



第3文型 *level - 3* ◆日本語から第3文型の英文に正確に訳す

次の日本語を第3文型の1文の英語に訳して書きなさい。

- (1) 彼らは毎晩テレビを見る。

[]

- (2) 私たちは昨日、そのニュースを聞いた。

[]

- (3) Ken は鍵をテーブルの上に置いた。

[]

- (4) Ann は彼の話信じた。

[]

- (5) Tom と Tetsu は旅行中にたくさんの写真を撮った。

[]

トレーニング

第4文型 level - 1 ◆文型の判定

次の英文がどの文型か答えなさい。(1～4までの数字で答えること)

- (1) My father gave me a book.

▷ヒント：gave(give) の目的語が何であるか、整理して確認

[第 文型]

- (2) She will send a letter to her friend.

▷ヒント：前置詞がどこにどう使われているか、に注目

[第 文型]

- (3) The teacher showed us a map.

▷ヒント：目的語が「～に＋～を」になっているか確認

[第 文型]

- (4) He bought a present for me.

▷ヒント：語順と前置詞に注目し、目的語をつかむ

[第 文型]

- (5) He told me a story.

▷ヒント：told(tell) の中身に着目

[第 文型]

第4文型 level - 2 ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。(文頭の単語は大文字ではじめること)

- (1) (she / some / me / pictures / gave).

▷ヒント：目的語の語順に注意

[]

- (2) (bought / a red bike / parents / me / my).

▷ヒント：登場人物が複数になっていることに注意

[]

- (3) (me / math / on Monday / Takashi / teaches).

▷ヒント：日・曜日などを表す語句は文末に置かれる

[]

トレーニング

- (4) (some flowers / he / her / showed).

▷ヒント：he と her の位置関係に注意

[

]

- (5) (John / an e-mail / me / sent / yesterday).

▷ヒント：sent は動詞 send の過去形

[

]

第4文型 *level - 3* ◆日本語から第4文型の英文に正確に訳す

次の日本語を第4文型の1文の英語に訳して書きなさい。

- (1) Mr. Smith は私たちに理科を教える。

▷ヒント：動詞の現在形は、いつも行われる習慣としての動作を示す

[

]

- (2) Ken は明日、私に彼の自転車を貸してくれる。

▷ヒント：「彼の自転車」なので、冠詞 a, the など使わない

[

]

- (3) 私たちに地図を見せてくれませんか。

▷ヒント：「～してくれませんか」は Can you ~?

[

]

- (4) 私の母は毎週土曜日に私にケーキを作ってくれる。

▷ヒント：動詞は make を用いる

[

]

- (5) 彼は今朝、私に嘘をついた。

▷ヒント：嘘は a lie

[

]



第4文型 *level - 1* ◆文型の判定

次の英文がどの文型か答えなさい。(1～4までの数字で答えること)

(1) My father will buy me a present tomorrow.

[第 文型]

(2) He gave a present to me.

[第 文型]

(3) We made original clothes as a birthday present for my brother.

[第 文型]

(4) She teaches high school students Chinese every Tuesday.

[第 文型]

(5) Hand me your money.

[第 文型]

第4文型 *level - 2* ◆単語を正しく並べかえる

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。(文頭の単語は大文字ではじめること)

(1) (work / gave / he / her / the).

[

]

(2) (book / handed / the / she / him).

[

]

(3) (us / about / asked / question / science / he / a).

[

]

(4) (gave / short / a / the / test / class / teacher / the / to).

[

]

(5) (showed / the / report / she / them).

[

]



第4文型 *level - 3* ◆日本語から第4文型の英文に正確に訳す

次の日本語を第4文型の1文の英語に訳して書きなさい。

- (1) 彼は私にその本をくれた。

[

]

- (2) 彼女は私たちに素晴らしいアイデアを話した。

[

]

- (3) 私は Lisa に宿題の答えを教えた。

[

]

- (4) 先生は生徒たちに1枚の美しい絵画を見せた。

[

]

- (5) Ken と Fred は私たちに新しい計画を示した。

[

]



第3・第4文型 *level - 2* ◆単語を正しく並べかえる (level - 1 はありません)

次の語句を並べかえて正しい英文を完成させなさい。(文頭の単語は大文字ではじめること)

(1) (he / me / his new phone / showed).

[

]

(2) explains / the teacher / the students / the problem / to).

[

]

(3) (some / her / money / lent / he).

[

]

(4) (brought / party / a / I / cake / to / the).

[

]

(5) (saw / yesterday / we / movie / an / interesting).

[

]

第3・第4文型 *level - 3* ◆日本語から第3・第4文型の英文に正確に訳す

次の日本語を第3文型または第4文型の1文の英語に訳して書きなさい。

(1) 私は先週、母に手紙を書いた。

[

]

(2) 彼女は明日、友達にプレゼントを渡す。

[

]

(3) Jack は彼の妹に新しいカバンを買ってあげた。

[

]

(4) 私はその英語の教科書を友人の Jane に返した。

[

]

(5) 先週の水曜日の午後、先生は私たちに難しい質問をした。

[

]

introduction

第5回 第5文型



最後ですね。S + V + O + C でしたよね。これって、第2文型と第3文型をくっつけた、ってことですか？



そう言えないこともないわね。まず、第3文型の S + V + O、があるでしょう。「私はあなた（のこと）を知っている」。
I know you. このままだと変なのでここに、第2文型の S + V + C で「あなたは美しい」を加えるとどうなるかな？

私はあなたを知っている。（そして）あなたは美しい。
こんな感じですか？
先生…あのお…他の例文にしませんか。



まあまあ、これがいいのよ。その文だと、I know you and you are beautiful. で、2つの文を and で結びつけただけ。そこで、もっとシンプルに「私はあなたが美しいことを知っている」にしましょ。

はあ〜い…（変にこだわるなあ）。
I know that you are beautiful. ですか？
あんまり言いたくありませんねえ。



別に照れなくていいのよ。そうね、それ、正解。
ただし、この場合、that は S + V + C イコールの関係なので、S + V + O（S + V + C）って感じね。
第5文型はもっと短くて、I know you beautiful. なの。

照れてるんじゃないませんっ。
I (S) + know (V) + you (O) + beautiful (C) で
私はあなたが美しいと知っている、となるんですか？
あ、言っちゃった…。



そのとおり！ すばらしい。二重の意味で正解ねっ！！
第5文型は、ほんとうは後半に you are beautiful という第2文型が隠れていると思っていいの。これを縮めたの。
じゃ「彼はあなたを最高の先生とよぶ」はどう？

う〜ん、単語を入れかえて…こうかな。
He calls you the best teacher. …ですね。合ってますか？



は〜い、大正解！！

ありがとうございます（棒読み）…。やれやれ…。



● GUIDANCE

1 S + V + O + C 主語＋動詞＋目的語＋補語

- ① 主語は、「目的語＝補語」と、動詞（知る・認めるなど）する

何のことかわかりにくいでしょうから、例によって、文型と、英語・日本語の例文をならべます。

例文1	S	+	V	+	O	+	C
	主語	+	動詞	+	目的語	+	補語（目的語とイコールで結ぶことができる）
	He		calls		me		Jackie.
	彼は		呼ぶ		私（を）		ジャッキー（と）

もう一つ例文です。

例文2	S	+	V	+	O	+	C
	主語	+	動詞	+	目的語	+	補語（目的語とイコールで結ぶことができる）
	I		know		you		beautiful.
	私は		知っている		あなた（を）		美しい（と）

さらにもう一つ。

例文3	S	+	V	+	O	+	C
	主語	+	動詞	+	目的語	+	補語（目的語とイコールで結ぶことができる）
	The news		made		me		happy.
	ニュースは		した		私（を）		幸せ（に）

▶第5文型は、「私^Sは 知る^V 彼を^O」という第3文型の文が土台になっています。

第3文型のOについて、補語を用いて説明を補うのが第5文型です。また、第5文型には決まった「言い回し」があります。「彼は私を～と呼ぶ（名付ける）」「私は彼を～と知る（認める）」「○○は私を～にする」など。上の例文のとおりです。

まとめましょう。

- ② 第5文型では、目的語＝補語という、仮の「S + (V +) C」の関係ができあがる

言い換えると、ここでは、O（目的語）is C（補語）の関係ができるのです。もう一度上の例文を見てください。

I am Jackie. You are beautiful. I am happy. となります。



③ 3 (文型) + 2 (文型) = 5 (文型)

このような数式を示す人もいます。一理ありますね。

第3文型の目的語について、補語による説明がついているのが第5文型です。前のページの例文2を、次のように書き換えることもできます。

▶ I know that you are beautiful.

この場合は、that を目的語にした第3文型の文です。そして that のあとに第2文型の You are beautiful. がつけくわえられているともいえます。

ただし、回りくどいので、第5文型でひとまとめにしてしまうことがしばしばです。

④ 第5文型でよく用いられる動詞 (詳しくは次のページに)

何度か説明したことを復習しましょう。

「文型」とは「英語の歴史のはじめから存在するルール」ではありません。【動詞がその意味・性質によって、後にどのような語句を求めるのか】を整理してまとめたものです。そこで、「第5文型」を作る動詞にははっきりした性質が認められます。次のようなニュアンスを持つ動詞です (第4文型は、【「送る」のように目的語を必要とし、さらに、「何を？」のようなツッコミを受けやすい動詞】でしたね)。

▶タイプ1 知覚 (知る・発見するなど) … I think you a good football player.

▶タイプ2 使役 (させる・～の状態にする) … You make him a good football player.

▶タイプ3 その他 … I call you a good football player.

⑤ 第5文型と第4文型の違い

何度か説明したことを復習しましょう。

▶第4文型も第5文型も、「^S～は ^V～する ^O～を (に)」という第3文型が土台になっています。

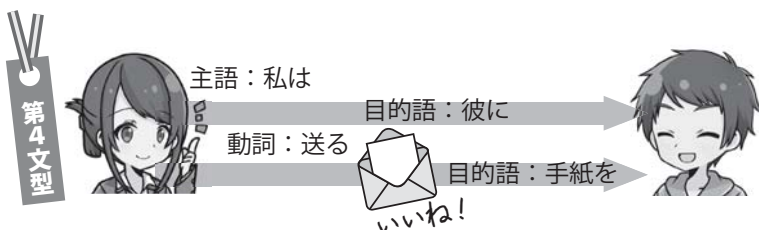
ただし、この後が異なります。第4文型は「私は・送る・彼に・手紙を」です。

▶第4文型: I send him a letter. 私は彼に手紙を送る。

この場合、I send a letter. 「私は・送る・手紙を」と書くと「誰に？」と質問が生まれます。そこで第二の目的語「him」を加えます。なお、第5文型のように「him (he)= a letter」という関係は成り立ちません。

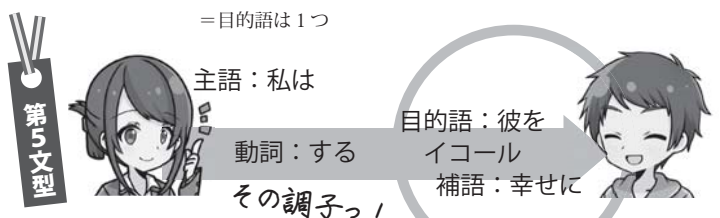
▶第5文型: I made him happy. 私は彼を幸せにした。

この場合、「him(he)= happy」が成り立ちます。第4文型と第5文型では、次の図のように、動詞の「力」が作用します。大きく異なる文型であることがわかります。



「送る」という動作 (力) は
人 (彼) と、モノ (手紙) の2つに作用する
=目的語が2つ

「する」という動作 (力) は
人 (彼=幸せ) だけに作用する
=目的語は1つ



チェックしておきたい第5文型の「よく出る」動詞

知覚タイプの動詞

なにかの状態を知る・認識する意味を持つ動詞のグループ。
O=Cという関係が成り立つことがポイント。

- think (～が～であると) 思う・考える
- see (～が～であると) 見る
- hear (～が～であると) 聞く
- feel (～が～であると) 感じる
- find (～が～であると) わかる

しえき 使役タイプの動詞

主語が目的語に働きかけ、「～である・～の状態」にするというニュアンスの動詞。日本語では「走る」に対する「走らせる」の意味。

- make (～を～の状態に) させる
- have (～を～の状態に) する
- get (～を～の状態に) しておく
- let (～を～の状態に) してもらう

上の単語から順に「させる」の度合いが強い。make はほぼ強制。have は任務や義務のニュアンス。get はしておくように促す。let は、お願いしてしてもらう、といった違いがあります。

その他のタイプの動詞

他にもあるが、call him Johnny や name the dog Hachi あるいは believe it true などのように「言い回し」として覚えるのがよい。

- call (～を～と) 呼ぶ
- name (～を～と) 名付ける
- keep (～を～の状態に) 維持する
- believe (～が～であると) 信じる
- leave (～を～の状態に) しておく (放置)
- elect (～を～として) 選ぶ (選挙など)
- paint (～を～のように) 塗る (壁など)



もうじき文型も卒業ね。じゃあ、問題。
次の文は第何文型でしょう？

Last Sunday morning, I looked at a picture in which the small red pig was dancing on the table.



残念っ！「長いから」で選んじゃいけない。S「I」＋V「looked」で、あとは全部修飾語。つまり、第1文型。a picture は前に前置詞があるので修飾語。文型に慣れると、こうやって、文の要素が見えるようになるの。

長っ…、主語の後ろが be 動詞じゃないので第2文型以外で…こんなに長いんだから「第4文型」ですか？



では、トレーニングです！